農時電送（のうじでんそう）

大豆 No.1

ＪＡ新はこだて若松支店、ＪＡきたひやま、ＪＡ今金町
檜山農業改良普及センター檜山北部支所　TEL 84-5514

大豆のは種について

☆は種の目安

は種時期は５月中旬以降（地温10℃以上、出芽期に降霜の心配がない時期）を基本とし、５月中には種作業を終わらせましょう。

品　種	は種時期	株間と10a当たり株数の目安	は種深度
いわいくろ	～5/25頃	18cm(8,418株)	覆土は3cm程度
トヨムスメ	5/25～30	18cm(8,418株)	
ゆめのつる		21cm(7,215株)	

※10aあたり株数：うね幅66cmで計算。

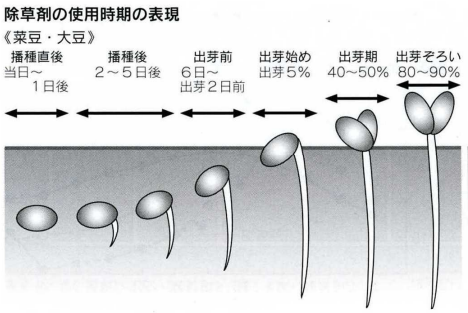
施肥例１：Ｓ３２５またはＢＢＳ３４３　50～70kg/10a（窒素:1.5～2.1kg/10a）
※施肥量は地力により調整する。また、窒素過多は根粒菌の着生を悪くするので避ける。

施肥例２：ＤｄＳ０８３（10-28-13）　60～70kg/10a（窒素:6～7kg/10a）
※地力が低いほ場や、開花期以降の生育が悪い場合は窒素追肥の効果が高いのですが、作業上追肥が困難な場合は肥効調節型肥料の使用を検討しましょう。

☆は種前・は種時に使用する農薬

対象病害虫	薬　剤　名	施用方法	施　用　量	回数
苗立枯病、紫斑病、タネバエ、ハト	キヒゲンR-2フロアブル	塗沫処理	乾燥種子1kg当たり原液20mL	1回
	または			
タネバエ、苗立枯病（リゾクトニア菌）、斑点細菌病	粉衣用ペアーカスミンD	種子粉衣	乾燥種子重量の0.3～0.5%	1回
タネバエ、アブラムシ類ネキリムシ類	クルーザーFS30	塗沫処理	乾燥種子1kg当たり原液6mL	1回
リゾクトニア根腐病、苗立枯病（ピシウム菌）、紫斑病、茎疫病、タネバエ、アブラムシ類、ネキリムシ類、ハト	クルーザーMAXX	塗沫処理	乾燥種子1kg当たり原液8mL	1回

※クルーザーと種子粉衣剤を併用する場合は、
　クルーザー→粉衣剤→根粒菌
　の順で処理すること。
※タネバエの多発が懸念される場合は、
　ダイアジノン粒剤5を播溝施用しましょう。
※紫斑病の発生が確認されているほ場では、
　キヒゲンR-2フロアブルもしくはクルーザーMAXXを施用しましょう。



ニューカントリー
2010年5月号より

☆除草剤散布

豆類の除草剤は、使用時期が細かく決められています。右の図を参考に、各薬剤の使用基準を守って散布しましょう。

○●農薬の適正使用・飛散防止に努めましょう●○